

段ボール

“生ごみ”を段ボール箱などで堆肥にできます。

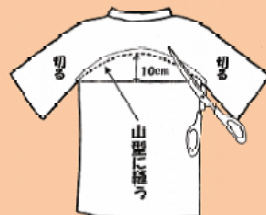
《設置場所》

雨の当たらない風通しのよい場所

《必要なもの》

- ・ 段ボール 1箱 (みかん箱程度の大きさ)
- ・ 底敷き用の段ボール
- ・ ピートモス (15リットル)
- ・ もみ殻くん炭 (10リットル)
- ・ 風通しのよい台 (花苗ケースやビールケース等)
- ・ 着古したおとな用Tシャツ (防虫カバー、作り方は↑)

園芸店やホームセンターなどで購入



1. 段ボールコンポストを作ろう!

- ① 虫が入るのを防ぐために、箱の継目にガムテープで目張りする。
- ② 長持ちさせるために、段ボール箱の底を二重にする。
- ③ 基材 (ピートモスともみ殻くん炭) を、段ボールに入れ混ぜる。
- ④ 段ボールの全面から分解に伴う水分が蒸発するので、風通しのよい台の上に置きましょう。
- ④ 段ボール容器を雨の当たらない、日当たりがよい場所に、防虫カバーをかぶせて保管しましょう!

※発泡スチロールの箱でも代用できます!



コンポスト

家庭菜園やガーデニングに利用でき、一石二鳥です!



2. 生ごみを入れて、混ぜましょう!

毎日、生ごみ (1日500~800g程度) を入れる度に混ぜます。生ごみの投入量にもよりますが、約3ヶ月が目安です。(基材がベタついたり、温度が上がらなくなります)

※生ごみを入れなくてもなるべく毎日かき混ぜてください。箱を傷つけないように注意して混ぜ込みましょう。

ポイント・・・上手く分解させるコツ!

- ☆ごみを分解する微生物の活動をよくするために、生ごみはなるべく小さくし、始めは箱の真ん中を中心に混ぜ徐々に拡げて混ぜ込みます。
- ☆1~2週間ほど経つと、微生物の活動が活発になり、白カビが出たり、40℃近くまで温度が上がったりします。白カビが出るのは成功のサインです!

3. 熟成して堆肥として使用しましょう。

約3か月後 (生ごみの投入量で異なります)、生ごみの投入を中止し、週1~2回を目安に水を全体がしっとりするくらい (約0.5歳~2歳) 混ぜて熟成させます。(約1ヶ月で熟成完了)

できた堆肥は3~4倍の土と混ぜて、家庭菜園やガーデニングに使いましょう。追肥としても利用できます。



ポイント・・・虫(ウジ・コナダニ)対策!

- ☆週一回は米ぬか、廃食用油等を入れて温度を高くすると、発生しにくくなります。
- ☆アメリカミズアブの幼虫が発生したら、コンポストの中身を全て黒のポリ袋に移しかえて、空気を抜いて口を閉め、2~3日天日干しにすると死滅します。その後、また再開してください。